

課題解決型授業(アクティブ・ラーニング)に関する調査研究プロジェクト

平成28年度 第2回 推進地域連携協議会

- 1 日時 平成29年 1月31日(火) 13時30分～16時00分
- 2 場所 旭川市立朝日小学校 図書室
- 3 主催 北海道教育委員会
- 4 参加者

<平成28年度ALPS構成員>

旭川市立朝日小学校	校長	中山 雅文	教頭	玉井 一行
	教諭	櫻井 啓子	教諭	北島 裕二
	教諭	木村 伸一	教諭	町田 涼介
旭川市立青雲小学校	教諭	貝谷 雅敏		
旭川市立大有小学校	教諭	石川 憲一		
旭川市立近文小学校	主幹教諭	三浦 一路	教諭	長瀬 剛仁
旭川市立新町小学校	教諭	亀卦川智香子		
旭川市立永山西小学校	教諭	須賀 昌俊	教諭	小林 豊
旭川市立永山西小学校	教頭	澤田 匡史		
旭川市教育委員会	主査	常盤 慎一		
上川教育研修センター	所長	小谷 要次		
北海道教育大学附属旭川小学校	教諭	小山 和歌子		
北海道教育大学附属旭川中学校	教諭	嶋田 善行		
北海道旭川東高等学校	教諭	尾村 晃治		
北海道教育庁上川教育局	教育支援課長	佐藤 潤一		
	指導主事	石山 輝		
	主査	薄葉 美絵		
北海道立教育研究所	研究研修主事	平山 道大		
北海道教育庁学校教育局義務教育課	主幹	神守 一志		
	主査	佐伯 基		

【アドバイザー】

北海道教育大学旭川校 教授 笠井 稔雄



5 概要

(1) 事業の趣旨について

今後求められる新たな学び（アクティブ・ラーニング）の指導方法等を確立するため、推進地域及び推進地域内の実践推進校（中心校）、連携協力校における取組等の情報を共有するとともに、調査研究における成果と課題を協議し、本事業の円滑かつ効果的な実施に資する。

(2) 【報告】今年度の成果等について

- | | |
|---------------------------|------|
| ○旭川市立朝日小学校(実践推進校) | 櫻井教諭 |
| ⇒参加者へ成果の具体をまとめた「研究報告書」を配付 | |
| ○北海道教育大学附属旭川中学校 | 嶋田教諭 |
| ○北海道旭川東高等学校 | 尾村教諭 |
| ○次世代型教育推進セミナーの成果について | 神守主幹 |
| ○調査研究のまとめの普及資料について | 石山主査 |

※各校種からの成果発表後の質疑では、中学校や高校での教科の専門性や特性に応じた研修の進め方や授業研究の状況などについて情報交流しました。

※教科ごとのちょっとしたつながりをくっつけようという「教科間の連携」や「学ぶことの本質」についての視点について話し合いました。

(3) 【協議】「今後の取組に向けて」

- | | |
|-------------|-------|
| ○旭川市立青雲小学校 | 貝谷教諭 |
| ○旭川市立大有小学校 | 石川教諭 |
| ○旭川市立新町小学校 | 亀卦川教諭 |
| ○旭川市立永山西小学校 | 須賀教諭 |
| ○旭川市立近文小学校 | 三浦教諭 |
| ○旭川市立朝日小学校 | 櫻井教諭 |

※各連携校の取組と校内へのアクティブ・ラーニングの視点に基づく研修波及の状況を基に今後の取組に向けて交流しました。

<主な意見>

- ・実践をしながらつくっていくのがよい。
- ・授業では、子どもの姿で見取りましょう。
- ・アクティブ・ラーニングは、授業だけではなく教員の研修でも取り組んで欲しい。
- ・授業改善を通して子どもたちが成長できることが実感できた。
- ・子どもたちが課題に対して「じっくり考える場面」や「思考のプロセス」が大切。
- ・「主体的・対話的で深い学び」をどう受け止めるのか現場にはまだ落ちていない状況。

(4) 【まとめ】

- アドバイザー 北海道教育大学旭川校 笠井教授

- | |
|--------------------------------|
| ①ALPSの研究体制確立と組織的な研究の実現が大きな成果。 |
| ②先生方を巻き込んで、授業改善の必要感を周囲に広げること。 |
| ③研究内容のモデルを示したので、これをベースに改善すること。 |

※今後、中学校を巻き込んで、小・中・高での連携を進めてほしい。